婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

每月一回一日發行　第四十號　大正十二年六月一日發行

東京[illegible]婦人と新社會[illegible]發行

婦人と新社會

六月號

必要と享樂

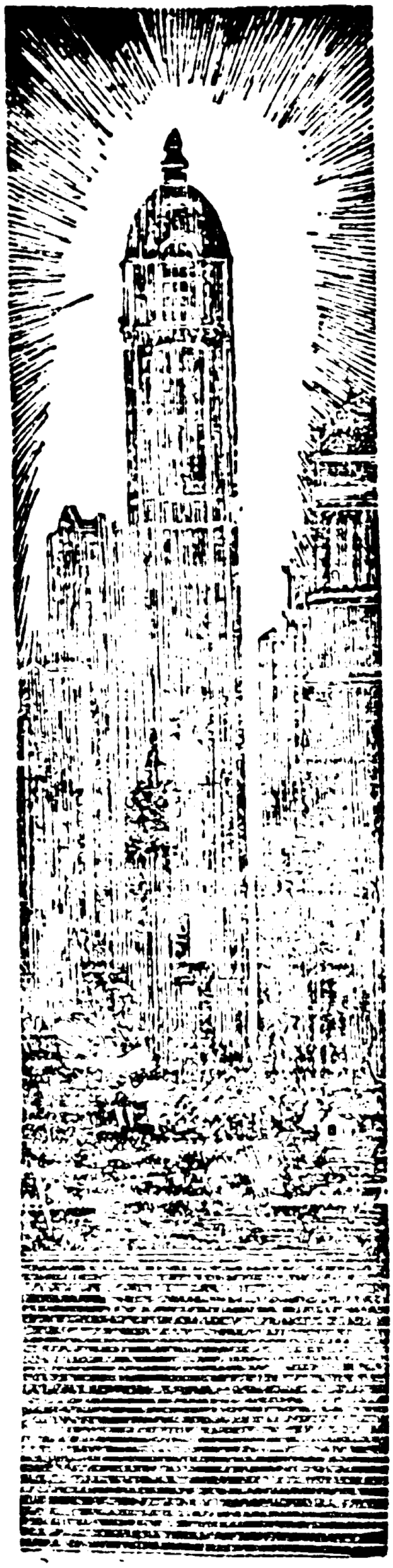
下級に位する人間及び動物は全く生きるために食つてゐる。胃袋を一杯にすることが食物に對する興味の全部であるから食物は出來るだけ早く胃袋へ入れられる。饑じがつて居る犬に一片の肉が與へるならば其の肉は彼の唇へ觸れるや否や胃腑に行つてしまつてゐる其の早いことは目にも止まらない。

又、或る人種の如きは海岸から魚類や貝類を取つて來るのだが取るや否や直ぐ食つてしまう。貝類の如きは其の殼から肉を引きはがす間ももどかしい位ひに。つまり養分を胃腑に送らればならぬと云ふことが緊急であつて食物に關する外のことは一切無視されてゐるのだ。云ひ直せば、饑じさを癒すと云ふことが主で、樂しむと云ふことは皆無である。

これに反して、人間が進歩すればする程、饑じさを癒すと云ふよりも享樂と云ふことが主になつて來る。嗜好が豐富になり視覺、臭覺、味覺を樂しませるためにあらゆる技巧が料理に加へられる。其處で、食物が原料の狀態からいよ〳〵胃腑に納まる迄の距離の長短が文明の尺度であると云はれてゐる。

であるから、生活の凡ての様式を簡單に〳〵と云ふ生活改善の叫びを極端に進めて行くならば此處迄進歩して來た人間を以前の野蠻狀態に引き戻すことになりはしないだらうか？

尤も、金と暇があるにまかせて隨分馬鹿氣た不合理な生活をして其の金と暇を心身の營養に費すことの代りに却つて心身を害するように消費しつゝある人間も少なくないことは事實だが、併し、それに付ては問題は又別である。



昔の公娼と今の公娼

貞操及び性慾に關聯した問題を考へる時には人は必ず公娼私娼問題を思ひ起しますそして、性慾道德の向上を計るには此の公娼私娼を撲滅しなければならないと云ふ意見も或る一部の社會改革者によつて發表されてゐます。處で、其の公娼私娼と云ふものが時の流れに從つて徐々と其の姿を變へつゝある事實に付ては人は餘まり氣付かずに居るようです。

昔から存在してゐる公娼は男の心を出來るだけ刺戟するように化粧した顔を並べて見世を張つて客を引いてゐました。彼女等が其の不德な商賣をする場所は勿論遊女屋に限られて居ました。けれども、一般に文字が普及した今日に於ては其の公娼が進化して新聞紙上に其の見世を張るようになりました。つまり、『性慾の研究』とか『性教育』とか、又は『戀愛至上論』とか云ふ美名の下に、或ひは又其の他あらゆる出來るだけ刺戟の強い言葉を用ひて性慾挑撥を目的とする廣告が堂々と大新聞の第一面に顔を並べてゐます。

舊式の公娼の刺戟は、其の公娼に接近して行く者のみが受けるのであるし、又、誘惑される者は男に限つてゐましたが、現代式の新聞紙上を利用しての公娼は其の刺戟を傳播する範圍が廣く、如何なる嚴格な個處へも、如何なる良家庭へも、何の臆面もなくグン〳〵這入つて行きます。そして、誘惑される者は男ばかりでなく女も等しくひッかけられますから、其の公娼屋は一躍して巨萬の財を積むことが出來ます。

一言で云ふならば、此の社會には精神的の修養を經て居ない本能のまゝに性慾の滿足を得ることを以て無上の快樂として居る人間が充滿してゐる。それを見て取つた出版屋は大々的の廣告の力を用ひて其等の色餓鬼を引きつけて金を儲ける。此の出版屋と讀者の關係は、遊女屋と遊蕩兒の關係と同じなのです　性慾に惱んでゐる其の弱點を捕へて金儲けをしようとする動機は出版屋も遊女屋も同じであり、彼等が投げた刺戟物をはじき返へす力もなくズル／＼と引きづられて行つて其の心身を毒する青年男女の心理は遊女にうつゝをぬかす遊蕩兒の心理と同じです。

此の悪傾向は我が日本に於て計りでなく、世界至る處同じであるようです。昨年私の夫は英國を巡遊中、メリー・ストープ女史の著書を私に送つて呉れました。そして手紙には『此の本がよく賣れることは實に素晴らしいもので、あらゆる書店雜誌店新聞販賣店は云ふに及ばず、旅館でも料理屋でも又は百科店のような處でも、其の外いろ／＼な處で此の本が賣られてゐるのを見た。』とありました。つまり、どんな處へ置

いても此の本は文字通り羽が生へてゐるやうに飛ぶやうに賣れるので、客を扱ふ人達は自分の商賣が何であれ、競つて此の本を出版元から引き受けて來て賣つてゐると云ふ有様だと云ふのです。

其の本は産兒制限に關する、むしろ、性慾に關する著書と云つた方が適當であるかも知れませんが、一九一八年三月に初版を出して一九二一年十月には百六十一版になつてゐます。我が國の或る出版屋のやうに二百部乃至三百部を一版として數へるのではなく、一版は本當に一千部或ひはそれ以上ですから、先づ一千部としても十六萬一千部出たわけです。

どうして、それ程の大部數が出たかと云ふと、それは産兒制限の方法が主になつて居るとは云へ、生殖の事實が如何にも詳細に書いてあるのです。露骨に過ぎると思へる程全く赤裸々に、誰にも分り易く、恰かも婦人科の醫書を通俗化し、それに、婦人自身の實驗や實感をも加へてあるのです。ストープ女史自身は本當に眞面目に親切に

英國民の結婚生活の衞生と幸福を思ふて書いたものらしいのですが、併し、一般には丁度『性の衞生』の名の下に生殖器の説明を誇張したり、猥褻な讀物を印刷したりした劣等なものと同視され歡迎されて居ると云ふかたちになつてゐます。

つまり、性慾及び生殖に關する問題を取扱つた書物は、其の著者の目的がどの邊にあらうとも、一般讀書界に於ては、恰かも春畫を見るような心持ちで其れを歡迎して居るに過ぎないのです。

で、ストープ女史は自著の賣れ行きに對して苦笑されて、そして、絕版にしたい意志を持つて居られるとか聞きました。

とにかく、從來は性慾の亂用と云へば、主もに其の相手は公娼私娼であつたのですが、二十世紀の今日に於ては、文學が其の公娼私娼の役を勤めて居るのですから驚かざるを得ません。

こう云ふ狀態にあるのですから、性慾道德の向上のために公娼私娼を廢した處で、

其の影響が如何に微力であるかは想像出來ます。私は公娼私娼廢止論に決して反對する者ではありません。けれども公娼私娼を廢止すると同時に、それに代はるもつと害毒の大きいものが存在してゐることにも識者は目を付けなければならないことを云ひたいのです。『研究』の又は『文學』の名の下に絕間なく青年男女を誘惑しつゝある公娼の惡勢力に注意しなければならないことを云ひたいのです。併しながら、さう云ふ惡勢力に誘惑され支配されると云ふことが人間性の要求であるのです。クラフトエッビング博士の『性慾の研究』によると、牛肉を買つて來て、庭の植込の中に立てゝある裸體の彫刻像の或る個所に貼り付けて利用してゐた植木職人や、甚だしきに至つては獸物を相手にして居た人間が歐洲にはあります。さう云ふ者と比較するならば、文字のうちに性慾の滿足を求める方は、先づ、高尙の部類に屬すると云へば云へるかも知れませんが、併し、其處には劣等さの度に幾分の差があるだけで、矢張り、同種類に屬する人間共であります。

人類の精華なる精神的人物となり得る可能性を附與されてゐる人間の行爲としては前述の事實は何としても悲しむべき狀態であります。人間性の要求だとは云ひながら其れは病的の要求であります。

一體、人間を動かさしむる動機を先づ順序的に列擧するならば第一は自分の生命を維持しようとする事、第二には性慾、第三には快樂の追求　第四には自己愛、第五には同情、第六には宗敎と云ふことになりますが、此のうちの第一の生命維持に對する動機は人間の一生涯に渡つてゐるに反して、性慾の動機は多くの場合、一生涯の三分の二位にしか當つてゐません。けれども、其の期限中、殊に性に目覺めた初期に於ては男子の場合に於て猶更其の動機は强烈で、生命維持の動機を始め他の一切の動機を押し退けて、性慾の動機に支配されるようになります。

けれども、修養の力によつて他の動機を優勢にして置くならば、性の動機の抑制が可能になり、正當に發達して行つて健全な結婚となり、親としての役目をも適當に遂

行し得て、道德的社會的に有意義に性の作用が營まれますが、さうなるに必要な修養を缺いて居る場合には性の動機が異狀に發達して、健全な結婚、正當な生殖の代りに性慾道德の攪亂者となるのです。

粗笨なる單なる性慾が異性に對する精神的の愛と變じ、性慾が精神的愛に變化する其の過程を踏んで居る間に、性慾以外の他の動機の發達に資するための修養を積み、しかる後に、其の精神的愛を基礎に結婚をして一家庭をかたちづくるならば、個人としての生活の安定、幸福は勿論のこと、社會的の見地からは其の家庭は堅固なる社會の基礎であり、人種的の見地からは健全なる人種の延長と云ふことになります。

性の衝動がどんなに強くても、もし、それが道理と意志の力によつて支配されるならば、其の衝動は個人的にも社會的にも有益な行動となつて現れます。けれども、其の反對に道理と意志が性の衝動に負かされる時に、其れは非社會的の行動となつて現れます。幸福な結婚、健全な家庭の建設と云ふ方面には進み得ず、多くの女性を犧牲

にし社會に害毒を流し果ては自己をも亡すと云ふはめに陥ります。

大抵の人は子供の時から異性に對し、家庭に對し一種の理想を持つてゐます。で、性慾の動機が强烈になる前に、他の動機を（前に性慾の動機の外に五種の動機を擧げて置きました）充分に優勢にして置くことによつて、性慾の動機は理想化せられ、詩的にさへなります。此の動機を高尙化し得た男子は家庭生活に落ち付くことが出來、精神的愛の結合による結婚生活に充分なる滿足を見出し、其の德性を益々みがき上げかくして、社會的及び國家的の健實さを增進します。

ですから、從來は個人並びに社會の幸福のために性慾の衝動を挑撥するような言辭を愼しみ、出來るだけ長く其の衝動を眠らせて置いて、他の衝動の發達を計ろうとする社會道德なるものがあつて、人は擧つて其れを守つて居ました。

處が、今日に於ては、自由思想の美名の下に其の社會道德と云ふ堤防は打ち破られてしまひました。そして、怒濤のやうな勢をもつて性慾に關する文學が靑年男女を襲

ふて、一個の人格者として生くべき何等の準備のない彼等の性慾本能をグン〳〵目覺めさせてゐます。其の力に他の動機は皆壓倒されて多くの青年男女は益々淫奔に流れて行かうとしてゐます。

其處で私は從來の公娼私娼と共に二十世紀式の文學上の此の公娼をどう取り扱つていゝかと云ふことを世人に問はふと思ひます。

勞農露國と外交「一」

過激主義と外交と云ふ此の二ツの言葉は相容れない言葉であるように思へる。既成の世界を破壊することを以て目的とし他の主義を一切認めない過激主義がどうして主義を異にしてゐる他國と外交が出來るのであろうか？　であるから、露國が他國の承認を求むるのは他國を赤化する便宜を得ようとすることではないだろうか？　勿論人生は矛盾の多いものである。そして此の頃は過激派が秘密裡に宣傳してゐるものを、表向きに外交の名を借りて實行し、そして、過激主義者の外交の共進會が開かれてゐると云ふような觀がある。過激派の外交家は他國の外交家と商議することを許されてあるのみならず、其外交の勝利の誇りを折り〳〵見せてゐる。世界の半煮への眞理を隠藏なく誰にでも話す其の態度は世界の今日迄の外交上の眞實性の記錄を破つてゐる。其上彼等は職業的の外交家がシバ〳〵缺いてゐる一ツのものを持つてゐる。つまり、計畫の統一と云ふことと其の計畫を實行する手段とを整頓させてゐる。（二十五頁へつゞく）



若き女性達に

今年は或る女學校の卒業式に私は列する機會を持ちました。校長さんが生徒達に卒業後の心得を云ひ聞かせる言葉の中に『若い婦人達は結婚前に於てこそ修養と云ふことを忘れずに多少書物にも親しんで居るが、結婚して家庭へ入るや否や全然書物を捨てゝしまつて修養と云ふことを全く忘れてしまうと云ふ非難が世間には隨分あるようだから、皆さんは其の非難される者の仲間にならないように、常に修養を怠らず、學校に於て植へ付けられた知力の芽を益々大きく育てゝ行くように心がけられたい』と言ふようなことがありましたが、校長さんの其の言葉は間違つてゐないと私は思ひました。

實際、多くの若い婦人は獨身の間に於てこそ、いろ〳〵の方面に興味を持ち、知力的又は藝術的方面にも活動して居ますが、結婚と同時にそれ等の活動は全く止んでしまいます。そして、それにはいろ〳〵の理由もありませうが、先づ第一に學校で植へ付けられてある筈の知力の芽が本當に根を下して居るかどうかが問題ですし、第二には本人並びに周圍の人達の修養と云ふことに對する無理解です。

一般の男子、並びに年長者達は妻が又は嫁が知力的に努力することを好みません。彼女の知力的努力を邪魔しない迄も横目で其れを見てゐると云ふ風があります。ですから妻として嫁として世間から多く望まれる婦人は知力的にはゼロであつても家庭的な仕事の出來る婦人です。

女に讀み書きを敎へるのは危險だと云つた氣風は昔のことであると思つてはなりません。今日に於ても、大部分の男子並びに年長者達の胸の奥にはさう云ふ氣分が潜んでゐます。そして、一般がさう云ふ氣分を胸の奥に秘めてゐると云ふことに付ては婦

人自身にも幾分の責めが無いとは云へません。

一體、高い知識、深い修養は人生のどの方面に於ても有益なものでなければならない。殊に　家庭婦人が高い知識を蓄へ、深い修養を積んでゐると云ふことは家庭の幸福、社會の進歩のために無限の價値があるにも拘らず、それが嫌はれてゐたに付ては其等の知識及び修養が誤まり用ひられてゐた結果に外ならないのです。

高い知識を享有し、深い修養を經てゐる結果、家庭生活が精錬され、豊富になり、高尚化されることの代りに、生半可な哲學觀や、藝術觀や、文學觀に心醉して、實際上の仕事を全く等閑にしたり、或ひは一つの職業を覺へて有職者になれば其れだけで一人前の立派な人格者であると高くとまつてしまつてゐたりした結果、婦人の學問と云ふことが一般に嫌はれるようになつたのだと思ひます。

本當の意味の修養や學問は周圍の人達を益し、好感を與へねばならぬものであつて斷じて不愉快や危險を與へるものではありません。日々の仕事をより有効に完全に遂

行するために學問が利用されるのではなく、唯、徒らに、知識の斷片を弄ぶ新しがり屋が出來るので、何の罪もない學問其れ自身迄が嫌はれるようになつたのです。

併し、周圍がどんなに無理解であつて、多少の壓迫があつても、女子自身が修養の必要を體得してゐるならば、何とかして其の方法は見出せると私は信じて居ます。前に擧げた校長さんの云ふように、知力の芽が本當に頭の中に根を下してゐるならば、その芽は何としてでも育てることが出來ると思ひます。家庭に入つて家事に忙しいと云つても朝起きるから夜寢る迄、一分間も隙がないと云ふ程、それ程用事があるわけのものでもなし、且つ家庭の仕事と云ふものは常に精神を其の仕事に集中して居なければならないと云ふ程難しいものでもないのですから、頭が知力的の方面に傾いてさへ居るならば、洗濯をしながら美しい詩に付て考へることも出來るし、又、赤子に乳房を含ませながら大人物と話をすることも出來る。つまり、書物を通してプラトーと語り、キャントに質問すると云ふことも出來るのです。

けれども、多くの場合、結婚前に知力の種が頭に這入つて居ない。女學校を卒業した頃には知力の芽が現れたようにも見へたが、結婚して家庭へ入ると同時に枯れてしまつたと云ふのは、本當に種が這入つて芽を出したのでなく、外部から挿した芽であつたのです。本當に根を下して居なかつた處へもつて來て、周圍の壓迫や繁雜な家事に襲はれ手足を子供に縛られるので其の芽が枯れてしまうのです。

肉體は一人前になつても、頭が一人前にならないうちに結婚して家事に對し、育兒に對する義務を負はせられるので、精神的に熟すと云ふ機會がなく年と共に心身共に凋びて行くばかりです。

一體女子の學問と云ふことは、人種的の並びに社會的の大問題を女子に了解せしめ女性としての重要なる義務を完全に遂行させようとする廣い考へが其の基礎となつてゐるものであります。つまり、婦人の修養と云ふことは家事育兒の義務を捨てさせようとするものでなく、その等の義務を完全に有効に果させようとするものであるので

す。

そして、結婚前に於て、或る程度迄の修養が出來て居るならば、つまり、多少の風雨にあつても叩きつぶされないだけに知力の基礎が築かれてあるならば、どんなに忙しい家庭生活に入つても、知力の向上のために費すべき時間はどんなことをしても見出し得るし、其の上に其の日其の日の實際上の仕事の各々が皆有力な經驗となつて、知力の向上の糧となり、知能と實力と相共に助け合ひ、相共に發達して行きます。

ですから、知能の發達の程度を少しも考慮することなく生理的に一人前になつたと云ふ理由で結婚を急ぐことが、婦人の進步向上の最大なる障害となつてゐるのです。

女子敎育は現今に於ては隨分盛んであり、又、婦人の知識欲も旺盛でありますが、其の割りには女性として人としての立派な婦人が現れないようです。そして、其の理由は前に云つた女子の學問の重要なる基礎となつてゐるものに付ての自覺がないことと、もう、一つは知力の追求が一種の流行になつてゐて、其の本當の意義が體得され

て居ないことによるのです。一種の流行によつて、つまり、人眞似の勉學でありますならば、結婚して家庭に入つて、目前の絶對必要と云ふ家事に追はれるようになれば其の勉學が全然杜絶されてしまうのは當然です。其の上に夫なる男子の利己主義が婦人の知力上の正當な發達を阻止すると云ふ場合も決して少なくありません。

あらゆる點に於て、妻が夫に劣つて居ると云ふのが世間一般であると云ふことは誰でも承知して居る事實ですが、偶々妻の方が知力的に又は職業的に夫よりも優れた能力を持つて居る場合にも、大抵の男子は其の妻が其の能力を充分に發揮させ、社會的に活動することを喜びません。勿論妻が知力的に又は社會的に充分に活動しようとすれば、自然家庭的の仕事の幾分を——彼等が無産者である場合には——夫は分擔しなければならず、今日の普通の男子にとつては其れが大きな苦痛なのです。

妻の知力上の發達が、夫の事業と同じ方面に進んで行つて、其れが夫の事業の助けとなるならば多くの場合、夫は喜んで妻を自分の助手とします　醫者や商人に其の例

が澤山あります。處で、妻が夫の助手である場合は大抵の場合家庭は圓滿ですが、夫婦が其の覇を爭ふような平等な位置にある時に、理窟に於ては何の不都合もなさそうですが、事實に於ては二人の間の調和がなか〴〵難しい。たとへば俳優同志の結婚で成功したのは殆んどないと云つてもいゝ位だと云はれてゐます。それは、二人ともに自分の藝術に沒頭する結果、彼等の心身に營養を與へねばならない家庭其のものが無視されると云ふ處にも大きな原因がありませう。

男女が同じように政權を持つ國の政治史を見ると、夫と妻が全く政見を異にし政爭をする場合、其の夫婦關係が疎にならなかつた場合は殆んど無かつたと云はれてゐます。妻が夫と政見を同じくし、夫の味方となつて働く場合には夫は、むしろ、喜んで居るでせう。婦人に政權がない我が國などでも、妻が夫の政權を擁護するためにありつたけの力を傾けて働いた例は澤山あります。けれども、もし、妻が夫とは別な政見を持つてゐて夫に敵對して立つた時には彼等の家庭生活の圓滿を缺くようになること

は自然の結果でせう。ですから、多くの男子は婦人が政界に入ることを喜びません。そして、夫の政見に反對するような意見を妻が持つことは夫を侮辱するものであるように一般に考へられて居ます。

けれども、私は考へます。夫と妻との間に政見の相違が存在すると云ふことは、二人の間には充分な了解、完全な調和が既に缺けて居たのであることを。夫婦は家庭生活が本で政治生活は末ですから、二人の間に充分な了解と調和があるならば政權に違ひを來す筈がないことを。

父と息子が相反する政見をもつて政界に立つたと云ふ例は度々あつたことです。此の場合に於ても父と子は決して愉快ではないに相違ありません。けれども、それは夫妻の場合に於ける困難よりも、其の困難は輕いものです。父と子は大抵の場合、其の修養を異にし、現在の生活に於ても其の環境を異にして居ますから意見に相違のあるのも自然の成り行きですし、且つ又、いよ〳〵調和が難しくなれば別居しても濟むこ

とですが、夫婦の場合にもし別居と云ふようなことになれば、其れは家庭の破壞を招來するものですから事態が容易でありません。

婦人參政權要求の聲がだん〳〵高くなつて來るに連れて必ず起る反對意見のうちには、此の夫妻の間の政見を異にした場合の困難が持ち出されるに極まつて居ますから若い方達はそれに對してもー應考へて置く必要があります。

現今の若い婦人にとつての、もう一つの重大なる困難は知的生活乃至は職業と母性の役目とのヂレマにかゝらねばならぬと云ふことです。心理的の見地からは男子も婦人と同じように無限の關係に於て我が子に結び付けられてゐます。けれども、實際生活に於ては、婦人は母となることによつて其の生活の形式を全然變へて行かなければなりません。ですから、職業と親の義務との調和に關しては男子の場合と婦人の場合とは全然問題を異にしてゐます。

それで、婦人の選むべき道として、母性か？　職業か？　と云ふことが可なり久し

い間識者達の論題となつて居ましたが、そして、私は、母性が最高な倫理的の意義、最も重要な社會的意義のあるものであることを十年來主張して參りましたが、それが今漸く一般に認められて來たことを無限に喜んで居ります。多くの婦人が豊かな母性愛の持主であり、其の使命に忠實であることが、次代を健康狀態に導き、それが社會道德の基礎であることは今迄に繰り返し〳〵私は主張して來ました。

母としての使命に服役して居る婦人は、男子と同じような職業に從事して居る婦人よりも遙かに高い尊敬を社會から受くべきものであると云ふことも常に繰り返へし〳〵申し述べて來ました。

處が、惡人が美名の下にかくれて惡事をすると同じように、母性愛なるものが甚だ不健康な形式となつてゐると云ふことも事實です。云ひかへれば、多くの母は自分の生活の大部分を子供のために奪はれて居るにも拘らず、其の時間を有効に子供を健全に導くために費すことの代りに、それが無用の甚しきに至つては有害の方面に使用さ

れ、却つて子供を惰弱と爲し、自分等夫婦よりも有益な人間を造る代りに、より劣等な利己主義者を造り上げ、社會のためには有害な社會員を造りつゝあると云ふことも事實です。

けれども、私共は絶望に陷る必要はありません。春の若芽が後から〳〵無數に頭を擡げて來るように、新しい希望と純に豐かな愛の所有者なる生氣潑溂たる處女達が現れて來て、そして貴い母性の使命に服役しようとしてゐます。

又、一方には久しい間、横暴者よ、女性の敵よと呪はれて來た男子達の中にも、稀には本當に人間的に目覺めた純な心の所有者があつて、そして、何と云つても、男子よりは凡ての點に於て遲れてゐる女子の知能の發達を援助し奬勵しようとしてゐます。

妻の知力の發達に資すために最上なる方法を講じたり、又は女の最大なる役目なる分娩又は授乳期に其の役目に服役してゐる妻を煩はさないように注意して居るのみな

らず其の役目の一部を自分に引き受けて居るような、母性の役目を了解してゐる男子を所々に見ることは、今迄暗黑であつた女性の世界に光明が現れて來たように感じられます。

多くの處女達が結婚前に、一時の快樂に心を奪はれたり一時的の美を誇るために多くの時間と金を無駄にすることなく、永久的に價値あるもの、則ち、知能を充分に發達させるために努力し、一定の人生觀を持つようになつてから結婚するならば、そして、夫になる人が人間的に目覺め、母性の役を了解して居るならば、たとへ、どんなに家事が多くなつても、又は子供が殖へても、彼女は家事に子供に引きづられて年と共に凋びて行くようなことは決してなくあらゆる經驗、あらゆる見聞が彼女の知能の發達に貢し、年と共に彼女の頭腦は熟して行きます。

そして、後になつて、時代後れな母として子供達に卑しめられることの代りに、顏の皺が殖へれば殖へたゞけ、白髮が多くなればなつたゞけ、それに熟した頭腦、豐富

な經驗の象徴として尊敬の的となります。

さう云ふことは、まだ、結婚もしない若い者のためには餘まり遠い處にある問題だとして排斥してはなりません。なぜなら、よき實を結ぶには芽ばへの時から其の心で居なければなりませんから。

勞農露國と外交「二」

勿論その計畫と云ひ手段と云ふものが決してたくみなものではない。何となれば彼等の目的は余まりに明らかで、絕對的である。けれども決して完成の位置に必進むべきものではない。同時に彼等の方法はあまりに大膽であまりに疎漏で余まりに無責任である。たま〱責任行爲があれば、それは後の大きな無責任のエペにすぎない。もう一ツ注意すべきは過激派は彼等の目的を追及するに付ては堅實であるが、併し、其の方法に於ては決して堅實でない。彼等は一たん約束しても其の約束を破ることが自分等に都合がよければグン〱破つてしまう。どう云ふことをしようとも自分等の主もなる目的に到達しさへすればよいのだ。途中で彼等の主張を變へることなどは何とも思つてゐない。從つて彼等の外交書類に於ても甚だ矛盾した言葉を弄して平氣でゐる。たま〱それを摘發するものがあれば勝手な說明を下してタリランやビスマルクが前世紀に於て常用としてゐた方法を此の二十世紀に於て平氣で用ひてゐる。（三十三頁へつゞく）



分りきつた問題

過去四五十年の間に私共の生活の樣式には驚くべき大變化がありました。たとへば私の生地は東京から三十哩餘り離れた處でありますが、私の母が若い時分に東京へ來るにはどうしても途中で一晩宿らなければならない。つまり、まる二日を歩き通しに歩いてやうやく東京へ着いたのでした。それを此の頃では三時間はかゝりません。東京から横須賀迄が一時間半、横須賀から向ふを自動車に乘るならば四十分間で行つてしまいます。

其の外、人間の新しい知識が廣大無邊な自然の力を支配して人間の生活を便利にしてゐる例は數限りなくあります。そして、今後に於ても、まだ〳〵、人間の發達しつ

ゝある知識と共同の力が現出されるであろうと考へられてゐる可能性は無數にありま
す。そして、人々は其れを認めてゐます。
其の結果、人間と人間との關係にも大變化を來しました。大部分の男子は最早以前
のように個人的な小規模な仕事をして生活を立てゝ行くことは出來なくなりました。
云ひかへれば、何もかもが分業で營まれるようになつたのです。
何もかもが變化しようとしてゐる、其の變化の渦の中にあつて、婦人の生活のみは
其の變化の影響を受けずにゐると云ふわけには行きません。其處で、一般に目覺めた
と云はれてゐる婦人の口調を借りて云へば、婦人も家庭内に計り蟄居してはゐられな
いと云ふことになつたわけです。
人間生活の一切に變化が來た。そして、今、私共は人間と人間との間の新しいかた●
ち●の調節法を發見しなければならない。此の過渡期に於て婦人は落ち付きを失つたと
云はれてゐますが、併し、婦人のみが落ち付きを失つたのではなく、今日の世界が落

ち付きを失つてゐるのです。

で、此の混雜した狀態に於て、婦人の生活と社會との關係を明らかにし、婦人の位置の向上を確かにしようとして、男女の性別を無視しようと企てられました。婦人が教育に產業に政治に及び社會的に制限を加へられてゐるのは婦人の人格が無視され、奴隷視されてゐる結果だと絕叫されてゐました。婦人も男子と同じような自由と幸福を享有しようと思ふならば、男子の領分と女子の領分との間に存在してゐる境界線を撤廢しなければならないと叫ばれました。そして、其の目的はほゞ遂せられて、婦人が大學に學ぶことも、教師になることも、新聞記者になることも――外國では政治家にでも辯護士にでも――工場で働くことも、商人になることも出來るやうになりました。

つまり、あらゆる方面に、殊に男子の大きな領分なる勞働界に婦人は入ることが出來るようになりました。處で、彼女達は男子の世界に於て、以前夢みてゐたような所

謂理想の世界を發見したでせうか？　さうでは有りませんでした。男女の間の人爲の境界線は撤廢されても、自然の境界線は依然と存在してゐました。女性の肉體は男性の肉體とは異つて居ました。體的勞働に於ては女性は男性と步調を合せることが出來ませんでした。

ですから、家庭を捨て、自由と幸福を目標として出立した職業婦人達は其の目的地に到着することの代りに、むしろ不確かな旅に出るには出たが、併し、歸へる處がないと云ふような狀態に陷りました。

今迄にも度々力說して來たことですが、性別を無視することによつて私共の自由と幸福が得られるのではない。其の反對に性別を認め、其れを高調することによつて男も女も幸福で自由です。性に關してばかりでなく、凡て人は持つて生れた特質と才能を充分働かせることによつて其處に自由と幸福を見出しますが、もし、其の特質と才能を働かすことを禁じられるならば非常な壓迫を感じ不幸であると同じように、婦人

が女性としての並びに、男子が男性としての特質を無視され同じような仕事に從事させられるならば、其處に不自然な現象が起り、男も女も自由の代りに壓迫を感じ、幸福の代りに不幸に陷ります。

男女は決して等しい者ではありません　男女は相互に補充し合ふものです。社會の單位は男でもなし女でもありません。男女が結合して單位になるのです。社會生活のあらゆる方面の活動に於て、男子と女子は如何にして補充し合ふことが出來るかと云ふことを考ふべきです。

政治に於ても、唯、男性的な正義ばかりで、其處に女性的なな。さ。け。が加はつて居なければ善政治ではありません。經濟に於ても、男性的爭鬪的經濟ではなく、人間の幸福と云ふことが經濟說の中心となつてゐなければなりません。一國家としても、國民の半數が冒險的な進取的な男子であり、他の一方の半數が保存的な愛撫的な女子なので國家は健固です。國家は絕對に異つた性質の聯合が必要です。

敎育に於ても、唯に理知ばかりでは敎育の半面です。其處に女性的の感情が加はることによつて始めて敎育の眞の目的を達することが出來るのです。其の外、如何なる制度でも男性の特質と女性の特質が聯合することによつて其の機能を充分に働かすことが出來るのです。

そして、此の聯合すると云ふこと、補充し合ふと云ふことは同じことをするのではありません。男子は男性の特性を發揮し男子に適した仕事を爲し、女子は女性の特性を發揮し女子に適した仕事に忠實であることです。

男女平等論は男女の競爭を惹起し、男女双方の生活を破壞することになります。けれども、今日の婦人職業の奬勵は行く處迄行かなければ止みますまい。終りなき旅に出かけて疲れ果てゝも歸へるに家なき狀態になつてから始めて目が覺めるでせう。

性に別があると云ふことは最も神秘で、同時に人生に於ける最も有意義なものですけれども、男女があらゆる方面に於て競爭の位置に立ち相爭ふようになる時に性別の

價値は無くなつてしまう。丁度、僧侶と俗人とが各自の利益のために相爭ふ時に宗教の意味が無くなつてしまうように。

要するに、私共の生活の樣式には驚くべき變化がありました。けれども、それは單に樣式が變つたゞけであつて、生活其のものが變つたわけでもなし、私共の目的が變つたわけでもありません。

井戶から水を汲む代りに水道口をひねるのであり、薪を燃す代りにギヤスに火をつけるのであり、使者を走らす代りに電話で用が足りると云ふだけで、生活の根本精神にも其目的にも、何等の變つた處はないのです。ましてや男性女性の性別に變化がありよう筈がありません。

唯、此處に變化を起さなければならないことは、女性的なものゝ價値に關する人々の考へ方です。女性に對する男子の頭の改造は勿論のこと、女性自身の頭も改造しなければなりません。

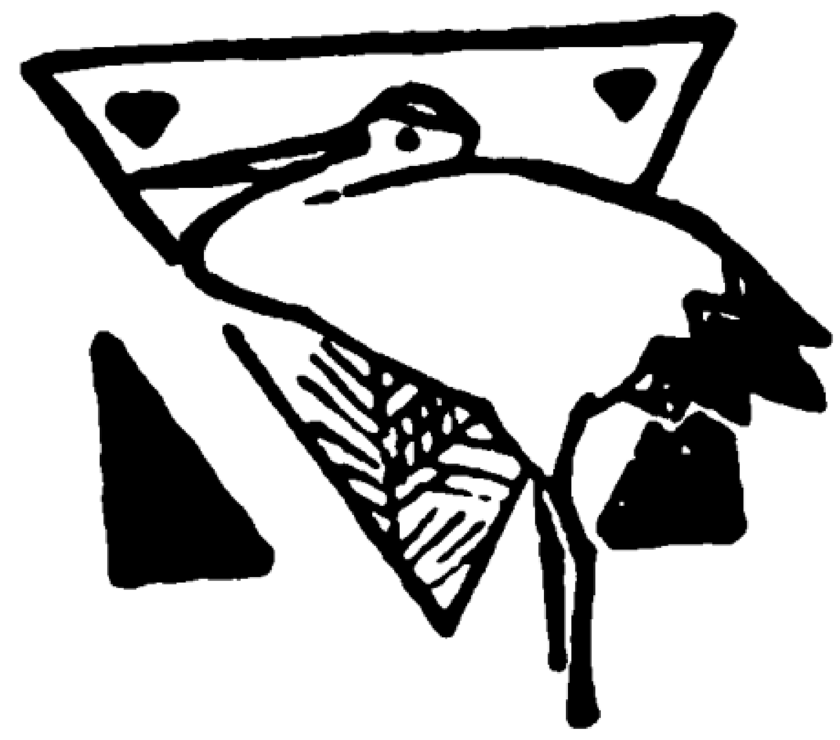
今日の種々ある諸問題のうちで、是も困難なる問題は分り切つたことで實は分つてゐない、つまり、誤解されてゐると云ふことです。

女性は結婚生活に入つても入らなくても何處迄も女性としての理想に忠實であることによつて人としての自由を獲得し、女性としての特權を保持し、人類の母たるの光榮に浴し得るものであることを私は何處迄も高調したいと思ひます。

勞農露國と外交「三」

過激派は其の辣腕を極端に迄振つた。或る時ビスマルクは「自分は本當のことを安全に云へる。なぜなら人は自分の云ふことを信じないから」と云つたが、それと同じく過激派の外交官はいはゆるビスマルクの云つた其の得點を持つてゐる。彼等は自由自在に毎日世界革命と云ふことに付て話してゐる。けれども、一般の人はそれを信じない。誰でも過激派の主もなる目的則ち世界革命と云ふことに變化が來るだろうと信ずる人は過激派の意義を知らないのである。そして、過激派に關する判斷を誤まつてゐる人である。

ボルシエヴイストの外交の發端は、今回の大戰爭を主人に對する奴隷の戰爭に、つまり、資本家に對する勞働者の戰爭にしようと云ふ目的をもつて國際組織を造ろうとしたことから始まつてゐる。そして、その始めに於て、彼等の非戰活動は獨逸を攪亂しようと計畫して、却つて、獨逸に利用されてしまつた。と云ふのは獨逸はその運動を巧みに避けて其れを聯合國にのみ活躍させるようにした。（三十九頁へつゞく）



平和と人間性

今日の此のこんがらかつに社會狀態は一體何に原因するでせうか？

人々のそれ〳〵の位置により、又は、考へによつて其の見る處を異にするとは云へ、とにかく、今日の人心が空理空論によつて欺かれ、指導され、道理と良心に従ふことを忘れて居ると云ふ處に最も重大なる原因が潜んでゐると云ふことは爭はれない事實でありませう。

たとへば、國民は自分等の上に支配者を持つのは正當でない。國民は國民自身が施政者であるべき筈だと云ふ主張が宣傳されます。理論としてはそれに相違ありませんが、併し、今日の人間性がまだ〳〵其處迄進歩して居ない時に、それは空理空論です。で、もし、世人の多くが道理と良心に忠實であるならば、今日の人間性が自分で自分を治めて行くように

進步して居ない事實を認めますが、其の忠實さがないために空理空論に惑はされ事實に合はないことを實行に移さうとする。そして、混雜を重ねることになるのです。

人知は素晴らしい進步を遂げてゐますけれども、それはまだ自己の慾望を滿足させるためにのみ用ひられてゐて、其の知力が個人の慾望を洗練し、個人の社會性の向上に資するようには使用されて居りません。

個人の慾望が洗練され、個人の社會性が發達しないうちは平和運動がどんなに盛んになつても此の地上に平和を招致することは出來ません。

どんなに大聲で平和を希望する旨を宣言しても、それは、空理空論による平和であつて道理と良心から來てゐるのではありませんから、口には平和を稱へてゐても、實は自分にだけ都合のよい平和であつて、もし、其れが自分自身の目前の利益と相反するような平和であるならば其れを取らない。つまり、自分に都合のよいものだけを求めて居るに過ぎないのです。で、百人百色の利益を求めて他人の利益を全く無視して居る社會にどうして平和が到來するでせう。其處には爭ひが重なるばかりです。

實に自己の慾望を滿足させるためにのみ用ひられる知識がどんなに發達しても其れは斷じて社會の平和に資するものでない。つまり、人知が所謂人間性なるも

のを洗練することに役立たせるようになる迄は決して平和の曙光は現れないのです。

非常に發達した知力が、唯、單に、一個人を利することにのみ用ひられてゐる結果、外國との通商は一部の人々の利益を計るために大部分の人の利益か無視されてあるし、戰爭は戰爭によつて利益を占むる人々によつて布告されて、實際に戰場に於て戰ふ人々の利害が基礎になつてゐるのではありません。一般の利害が基礎となつてゐるならば第一戰爭などが起る筈がないのです。

一般の利害を基礎として物事が處理され、一般人も亦多少の犧牲を拂つて　平和を招致しようと云ふ希望を持つて、希望を持つばかりでなく、其の手段に出たならば戰爭とか平和とか云ふ問題は起らない筈です。各個人、各社會、各國が本當の意味の平和を希望し、道理と良心に從つて事實を有りのまゝに發表し、誠意ある行動を取つて居るならば各個人間、各國際間のあらゆる問題は順當に解決されずには居ないのです。

けれども、實際には眞實な心で、道理と良心の命令に從つて平和を希望するのでないから、今日の社會上政治上の問題から爭ひ、則ち、戰爭を除去することは不可能になつてゐます。實に、一切の社會問題、一切の國際問題が、幾分の例外はあるとしても、大體に於て、皆道理と良心の命令を無視してゐます。道理と良

心が無視されて居るから共通點がない。共通點がないから標準がない。標準がないから國際聯盟と云ひ、平和會議と云ひ其の他種々の國際會議、又は、一國內に於ける勞資の問題と云ひ、まとまろうとしてはまとまらないのです。

もし、各國の各人が自他の利益を同じように見る公平な心をもつて平和を設定しようとする勇氣を持つようになるならば、平和とか戰爭とか云ふ問題が起る餘地は無くなります。人は、まるで、平和と戰爭と云ふものが別々に二ツ存在して居るかのように考へて居ますが、實は一ツであるのです。此の地上に平和と云ふ花を咲かせるのも、戰爭と云ふ嵐を引き起すのも其の根は一ツ、つまり、人々の心の持ち方によるのです。ですから、平和の裏面には必ず戰爭があり、戰爭の裏面には必ず平和があつたのです。そして一切の社會問題も此の範疇から脫してゐません。

平和な社會、平和な國際關係は共通な利益が基礎とならなければ設定されません。つまり、言葉と實際とが合つてゐない狀態を除去しなければならないのです民衆がカラッポウな言葉に動かされることなく、リアリテーによつて導かれるように聰明にならなければ社會問題の解決及び、平和は實現されないのです。

要するに、道理の革命が今日の急務です。或ひは人間性の改革と云つてもいゝかも知れません。無いものを有るかの如

く有るものを無いかの如く裝ふ言葉ばかりの理窟を排さねばならないのです。

學者も政治家も宗教家も敎育家も勞働運動指導者も婦人運動者も空理空論が民衆を誤まり、彼等の健全な進歩を妨げ、社會を安全な基礎の上に置き平和を招來することの代りに、永久に平和をかき亂すものであることを承知して居なければならないと思ひます。

最後に、社會の平和をかき亂す勢力をもう二ッ擧げて置きます。其の一ッは新聞で、他の一ッは法律家です。以前の新聞は民力の涵養と云ふことに、つまり、敎育上偉大な力を持つてゐました。そして、正確な記事を掲げ文字通り社會の耳目を標榜してゐました。處が、今日の新

聞は文筆の士を主にする代りに營利を目的とする商人を主として組織するようになつてゐます。從つて、新聞紙間の競爭は正確な事實の報道の競爭でなく、如何にして讀者に諂ふかの競爭となつてゐます。そして、無作法な俗趣味を讀者に提供したりします。其の上に殆んど凡ての新聞が徒黨機關になつてゐますから、それが政治上の偏見を釀造し、民衆を邪道に導き入れます。

又、法律家は彼等の勢力と雄辯とを、正義のために使用しようとするよりは、惡いものを善く見せることに使用してゐます。自分の扱ふ事件が惡性のものであるならば、判官を欺かうとし、感情に訴へて事實を抹殺するために其の雄辯を弄

します。つまり、法律家は正義を設定するのが目的ではなく、事件に勝つことを目的とします。

つまり、個人としては道徳的な宗教的な人であつても職業上のことになると公衆の要求に叶ふようにしようとして自分を賣物にするのです。そして、又、此の點が今日の政治家としての最も適當な資格であるので、彼は法律家として及び政治家として華々しい成功を世間に誇ります。要するに、社會のあらゆる方面に於てさう云ふ不眞面目な不健全な態度が續き、そして、其れを維持する機關が發達すればする程、此の社會は益々混雑に混雑を重ねて行き、益々平和から遠ざかつて行くのであります。

勞農露國と外交「四」

露國の過激主義者と聯合國の過激主義者とを獨逸は利用して愛國的な輿論を打ちこはし、聯合軍を破壞しようとした。併し、第二の國際主義をこれらの目的に利用しようとした企ては失敗した。と云ふのは第二の國際主義の社會黨の會員は自分等の國民的危險と云ふことによつて國際主義を忘れてしまつたからである。そこで第三の最も極端な國際主義が成立するの機會が來たのはその時であつた。そして、此處にも、又、獨逸の政策は過激主義と並行してゐた。戰爭國に於ける非戰社會黨の第三國際主義に對する基礎は一九一五年から六年にかけて出來上がつてゐたのである。要するに、彼等が露國を倒した後歐洲を攪亂するには獨逸に革命を起すことであつた。その目的のために勞農政府はいろ〳〵の交渉の結果ヨッフエ氏を獨逸に全權として送つた。（四十六頁へつゞく）

ある日の夢

原田琴子

なつかしや小鳥の聲
うれしや木々の芽の匂ひ
山深く來れば
湧き流れもあれ

涼しき風に疲れなわすれ
立ち止まり四方を見る
かすかなる山の姿
その上に浮ぶしら雲
はるけしやめちのかぎり

ああ遠く來て
われ
何をか求む
逝きし子は
こゝにもあらず
溪川にうつる翠に
いとゞなほ心はしづむ
山こえて
雲こえて
あはれ
いづこまで行かむ——

時代の生んだ不良分子

女は生理的の要求などは勿論皆無でも、唯、イチヤツクのが面白くて異性に接近して行く。男は女のソブリを見てスッカリ心の端綱をゆるめる。

男は女の承諾不承諾などを顧みては居られない程熱してしまう。

暴行事件を厳密に調査して行くと未知の男女の間に於てよりも、友人として親密な交際をしてゐた男女の間に多く、そして、それは性慾に關する男女の間の差に起因してゐると、或る學者は云つてゐるが、島田某と芳江子の事件も恐らく、さうした過程を經たものであらうと考へられる。

此の事件に付ては男を罵しる者があり、又は、女を非難する者も少なくなかつたが、そして、確に、まだかたあげのある小娘が父母の目を忍んで未知の男に手紙を送つたり、單身男を訪問したりした不謹愼な罪は明らかであるが、併し、それは、唯、人定道德を破つたのに止まるものであるに反して、男の方は刑事上の罪を構成したものであると私は思つてゐる。たとへ、何十本の手紙が女から行つて居たからとて、其のために無理に女を連れ出したり、假名したり、短刀を持つて居たり、傷を負はせたりしてもいゝと云ふことはない。

女の家庭が不取締りであり、女が茶目で輕卒であるから犯してもいゝと云ふ理窟は斷じて通らない。丁度不注意な親の子供には有害な駄菓子を買つて子供の健康を害してもいゝと云ふ理由はなく、戸じまりがしてなかつたからと云つて、ものを盗んでもいゝと云ふ理由にはならないと同じように。

もし、女が男女關係の一切を自覺した上で男を愛して居つて、そして、正當に結婚する意志があり、合意の上で旅館へ行つたのであるならば、男は何のために僞名したり、短刀を持つてゐたり、女の體に傷を負はせたり、警官の手で女と引きわけられた時に『俺の惡いことをしやべるとたゞでは置かないぞ』などゝ云つて女を威め付けたりしたのであらうか？　其の上に何のために謝罪文を書いたのであらうか？

それ等の事實を輝し合せて見ると合意の上の行爲でないことは明らかであるにも拘らず、此の事件がうやむやに葬り去られてしまはうとしてゐることを遺憾に思ふ。

とにかく、二人ともが社會のためには好ましくない分子であるには相違ない。そして、此の不良分子は過度時代の不健全な空氣が造つた產物である。

一個の人間として生きて行く上に於ての道德の舊い標準は破壞されたが、併し、新しい標準が打ち建てられてないので、思慮の淺い若い者が迷ひ放縱に迷ふてしまうのである。そして、これは青年男女の狹い意味の及び廣い意味の保護者、監督者であるべき筈の年長者が意氣地がないことにも歸因してゐる。

島田某の最初の小說がうまく書けて居ると云ふので若い者ばかりでなく年長者迄が褒め上げたり、又、あいにく其れがよく賣れたので、島田と云ふ一靑年の心靈は虐殺されてしまつたのである。小說が一ツ書けたからと云つて、何にも其れが一個の人間として價値あることの證據ではないのであるから、其のつもりで年長者達が島田某に對して居たならば、島田某もあゝ云ふ風に誇大妄想狂にもならなかつたであらうし、傍若無人な態度に出るようなこともなく、順當に其の天分を伸して行けたかも知れない。けれども、若くして褒め上げられたことが彼の致命傷であつた。彼の小說が賣れたと云ふことは彼が偉いのではなく、不健全分子が世の中には多いからだと云ふことを彼に知らしむべきであつた。けれども、さう云ふ親切な年長者か世間に一人も無かつたことが彼のためにも不幸であつた。

芳江子も亦現代の浮薄な齒の浮くような女の標本である。人生に於ける何等の經驗もなく、事物に對して

考慮すると云ふ習慣もなく、或る期節が來ると異性にズル／＼引きづら　て行く動物のように男に引きづられて行つたのだけれども、併し、それでも、自分ではそれが個人としての自由であるとか戀は神聖であるとか考へて居たのであらうと想像されて、實に苦笑を禁じることが出來ない。

私共が單に語學を一ツ覺へようとしても、語學に造詣の深い、つまり、語學に付て經驗を多く持つてゐる人の指導を受ける必要がある。まして、此の複雜な人生を無難に歩み、其の上に幾らでも進歩向上して行かうと思ふならば、此の人生に深い經驗を持つてゐる年長者の經驗を利用しなければならない。つまり、年長者の意見に耳を借す必要がある。

と云つて、それは何にも若い者は年長者に絶對に服從せよと云ふ意味ではない。人類がとにもかくにも今日の狀態に迄進んで來たのは過去の人の經驗の上に經驗を積んで一歩一歩と進んで來たのであるから、これからの若い者も其の順序を經なければならない。年長者の意見には聽くと聽かないとは別問題として一應は耳を借して見る必要がある。それが生活の安全を期し進歩向上して行くに必要な段梯子である。けれども、その善し惡しに拘らず、年長者の意見を一蹴してしまうと云ふのが此の頃の若い人の特長であり、そしてそれは進歩の段梯子を打ち破し、自分も其の梯子の下に落ちて、もう、上ることは出來ないと云ふことになるのである。

もし、芳江子が常識のある娘であつたならば『男と云ふものはこう云ふものであるから」と云ふような年長者の話が耳に入つて居る筈であるから、單身で男を訪ねるようなことはしなかつたに相違ない。

此の事件によつて若い娘達は覺醒する處がなければならない。つまり、父母兄姉と云ふものは、たまには例外があつても、大體に於て、自分の幸福を計らうとすることの外に何等の望みも持つて居ないのであるから、自分の進み行く方向を定めるに付ては、父母兄姉の意見をも一應參酌して見ようと云ふような謙遜な態度にならなければならない。

同時に、たとへ、どんなに美しい文章を書かうとも

暴力によつて女性を自己の意志に從へようとしたような暴慢な男子を極力排斥しなければならない。筆や口でどんなに自由を稱へて居ても、實際には決して自由を了解し尊重してゐる人間でないから。

女性を弄ばうとしたような文士の書いたものを手にして居ることは女性の汚れであり、恥であると云ふような氣分を女性間に醸造しなければならない。其の位の意氣が女性間に出來ないうちは女性は永久に男子に虐げられて居なければならないことを此の際特に若い婦人達に私は忠告したい。

電車道德に就て

此頃、電氣局で新式の低床ボギー車を新造して婦人子供專用としたに付て、『それは新進婦人に對する大侮辱と云ふもので、男子から憐まれるのだ。婦人が弱蟲扱ひされるのだ。……婦人子供などゝ云つて、婦人の身にとつてもお釋迦樣や孔子樣の婦人論をもつて扱はれるのは定めし不本意だらうと想像さる。……電氣局に抗議を提出して、そんな差別的待遇を打破させるようにしてこそ頼母しいんだが……新婦人の中にはかう云ふ勇氣ある御方はお在さぬものか？』と

朝日新聞「鐵箒」欄に婦人を揶揄した文章が出てゐたが、今より二十年も前には歐洲に於てもさう云ふ考へが流行して居たことを思ひ出して私は可笑しかつた。

實際、今迄の婦人論はお釋迦樣や孔子樣の婦人論なる女と子供を同一視し無人格者扱ひにしてゐたことに對抗してゐた。併し、人の考へはいつ迄も一ツ處に居ない。そして、今日の婦人論の婦人尊重、男女平等と云ふことは婦人が男子と腕づくで競爭して腕力では負けないと云ふ意味ではないことを前文の筆者に知つて頂きたい。婦人の體力が男子の體力より弱いからと云つて其れは婦人自身の罪でもなし、又、それが人間としての價値の下落でもない。

文明を開拓したり、一國を處理するために日夜頭腦

を働かせて居る人は、四六時中筋肉勞働に從事してゐる人よりも體力は劣つてゐるかも知れないけれども、併し、それだから、云つて人間として劣等な者ではない。それと同じ意味で、婦人は何百年かの遺傳か受けて體力が弱い上に、例外婦人はあつても先づ大體に於て壯年婦人は常に　代養成と云ふ大任を負ふてゐて其の次代が自分の肩からも膝からも離れずに居る。もし凡ての男子が今日の文明にふさはしい紳士であるならば、どんな重荷を負ふてゐる婦人でも何等の不便も不都合もなく電車を利用し得るに相違ない。けれども、弱い者、重荷を負ふてゐる者をグン／＼押し退け突き倒しても自己の便宜だけしか見ることの出來ない半野蠻男子が多いので實際婦人はいつも泣かされてゐるのである。

電氣局が婦人子供專用電車を造つた動機は那邊にあるかは知らないけれども、ともかく、凡ての男子の頭が人間の價値は腕力ばかりでないこと、及び、次代養成の任は個人のためにも國家のためにも重要であると云ふことを認め得るように文明的になる迄は、半野蠻人の侵害を防ぐために婦人專用の電車は必要であり、電氣局の施設に感謝しなければならない。

部落民の要求

群馬縣相馬學校の一訓導が部落の子供を引き倒して傷けたゝめに、其の部落では、其の訓導及び校長が謝罪しても其れでは滿足出來ず、其の訓導の娘を部落に緣付かせよと迫まつてゐるとか。何と云ふ恐しいことであらう。

今は、白人とでも黑人とでも支那人とでも朝鮮人とでも、南洋人とですらも結婚出來る世の中である。華族であらうが部落であらうが同じ日本人同志の結婚に何の不思議があらう。順當に結婚が成立し得る以上は。けれども、子供を傷けた賠償として娘を無理に緣付け

ろと要求するに致つては其の蠻風、其の卑劣に驚かざるを得ない。

ウカツだと云つて笑はれるかも知れないけれども、實は部落の問題が新聞紙上に現れた時に、私は今頃こんなことを云つてゐるのかと思つて異様な感じがした。もう、さう云ふことは過去も過去も大過去に屬してゐた問題で皆平等であると信じてゐたから。そして、それは私一人でなく、特別な位置にある人は別として、我が一般國民が皆さう信じて居たらうと私は思ふ。

けれども、彼等が人身御供と云ふような調子のものを強要することによつて、部落民と云ふ一階級が特に我が日本民族のうちに存在してゐると云ふことを廣く天下に廣告することになりはしないだらうか？

勞農露國と外交「五」

同時に數百萬のロシアのルーブルは獨逸に流れこんだ。其の目的は新しい獨逸大使ヨッフエ氏を通して獨派に革命運動を增進するのであつた。併し一外交官の荷物の中に秘してあつた過激主義の宣傳文書が發見されたのでヨッフエ氏は一九一八年十一月中に獨逸を去られぱならなくなつた。けれども、後に一九一九年中又一人の露國人ラデックがリープクネヒトと直接交渉をし、リープクネヒトをして獨逸のソビエット共和國の大統領としてレニンが認めようとした。で、その結果は既でに世界周知のことである。

で、露國の外交と云ふ事は要するに、秘密宣傳の代りに表向の世界革命の宣傳に外ならないのである。そして四十人あまりの勞農政府の外交官の中一人のチチエリンをのぞく外は皆猶太人であることは注目に價する。チチエリンは猶太人ではないが、併し、猶太人と密着な關係のある人だ。其外三十何人の新聞係りも亦殆んど例外なく猶太人であると。「今明日の露國」から）

法律と社會秩序

川の上にかけられた橋は人々を渡らせるためである。橋が新らしく出來た時には人々は向岸に達するのに今迄長い道を迂回しなければならなかつた面倒を除去されて非常に喜んだに相違ない。

處で、其の喜びに眩惑して其の橋を永久に稱讃しようとして其の橋の木材は腐敗し橋臺は崩れかゝつても猶其の橋を修繕又は改築しようとしなかつたならば其の危險はどんなものであろう。

司法制度は國民生活の安全を期し、其の上に、現在よりは一歩高く進歩向上させようとするいはゞ人生に於ける橋である。橋である以上は時々の修繕又は改造の必要は云はずもがなである。

であるのに、小倉哲子孃を精神的に虐殺した大野の罪が明らかであるのに、『刑法上かくの如き行爲を罪する法條がないから無罪である。』との有力なる法律論があると云ふのは何と云ふ馬鹿氣たことであろう。

一體、凡ての社會制度が其の根本に溯

つて見るならば人種の安全則ち團體生活の安寧を欲する情操から始まつてゐるが司法制度も矢張り其の情操の一ッ則ち秩序を欲する情操から來て居る。故に、一ッの犯罪行爲が明らかに立證された以上はたとへ其れを罪する法條がなくても法律の精神を正當に解釋することによつて罰するのは當然である。もし、それが出來ないなら法律の威嚴は全く地に落ちてしまう。

此の文が讀者の目に觸れる時分には、判決は下されてゐるであらうが、法の威嚴を保つ上に於ても、判事が聰明な處置を取り社會秩序の敵大野を嚴罰しなければならない。木材は腐敗し橋臺は崩れても、猶且つ、國民に其の橋を渡らせようとするような愚を敢てしないことを私は望んでゐる。

社會主義と社會進化の衝突

資本主義に反對する團體はいくつかあるが、其のうちで、社會主義のみが科學的であると今の社會主義者は云つてゐる。社會主義は科學と社會進化の法則によつて居ると云ふ。果して、さうだろうか？

過去七十五年間の社會進化の過程の研究は社會主義の原則と、社會進化の其れとの間に衝突が存在する事實を發見した。則ち、社會主義は生產者の利益及び幸福を目的とし、社會進化は消費者の利

益を主としてゐる。

社會主義は生産的資本に關して爭つてゐるに反して、社會進化は消費され得べき富を重要視してゐる。社會主義は生産の見地から搾取を論じてゐるに反して、社會進化は消費の見地から搾取を論ずる。社會主義は社會的富の生産の手段に關してゐるに反して、社會進化は社會的富の分配に關してゐるのである。

社會主義は生産の要具の持主と勞働者の間の利益の衝突を基礎としてゐるに反して社會進化は資本家と勞働者との共通の利益を調和しようとしてゐる。そして社會進化は生産の見地からの階級爭鬪を全然無視してゐる。

かくの如くに社會主義は社會進化と衝突してゐるのに、どうして、その社會主義が科學的であると云へるであろうか？ 社會主義は社會進化を基礎として居ない。基礎としてゐないのみならず、社會進化と衝突して居るのである。故に社會主義は科學的ではない。それはユートピヤでなくてはならないと云ふことは明らかである。

國際社會黨運動の實際のプログラムはどう云ふ關係をもつてゐるか？ と云ふと、其のプログラムは社會主義の理論的原則を基礎としたものではない。唯、經驗の上から政治上有効と云ふので定めたものであつて、其れに對して、或る社會黨の首領は『よく論議した政策の結果ではなく、民衆の本能に服從したのである』

と云つてゐる。實に國際社會黨の運動の速かな成長は全くこの民衆の本能に服從した處に其の原因が存することは認められる。つまり其のプログラムは民衆が社會黨に投げつけたもので、其の結果、多くの賛成者がそれに引つぱられて行つたのである。

處で、此の理論的原則に反對した、此の實際上の改革的プログラムは消費者としての民衆の幸福に關し、民衆の社會的利益を增進するのが目的となつてゐる。で、民衆が此の問題を綱領となす黨派にあつまつて來るのはこれらの利益が勞働者にとつて最高なものであるが故である。

如何なる國に於ても二ッの社會黨の派がある處には、民衆の賛成を得る方は、生產者としての利益を綱領とする方ではなく、消費者としての民衆の利益を保護する黨派に集まつてゐる。社會進化のはたらきに一致するものは經驗的に造つた實際上のプログラムである。理論と實際の此の衝突、つまり、いづれが科學的であるかを理解することが出來なかつた事が社會主義の最高な悲劇となつてゐる。

社會主義者は生產者の幸福と生產的資本とに關する原則が科學的であると云ふ。科學的であると云ふのは、それが社會進化の法則を基礎としてゐるからだと云ふ。けれども實行に於てはその原則を捨てゝ消費者の幸福と、消費され得べき富の分配とを基礎としたプログラムが作製

してゐる。此の社會黨の理論と實際の衝突の最近の例は一九一七年以來殊に著しい。

たとへば、米國に一例をとるなら、社會黨の一首領は一ツのプログラムを社會に提供した。そのプログラムのうちには貧乏な母の産前産後の補助や、市經營の托兒所、學校の增設及び改良、貧乏人の子供等には市が食事を供給すること等が含まれてゐる。其處で、彼は市長にならうとした時に次のように宣言した。

『もし、私が市長の椅子を占るならば暴利と無駄とを除去し、物價を最低に引き下げるために、市が食物市場に入るようにする。燃料に於ても、もし、必要なら市が直接に石炭を鑛山から買ひ實費で市民に配付する。牛乳に於ても亦其の方法をとる』と。

理論は何であれ、實行は消費者としての民衆の幸福が中心になつてゐる。處でこの同じ社會黨の市長候補者は或る時婦人參政協會に招かれて演説を試みた時には次のようなことを云つてゐる。

『社會主義は消費すべき富を主要とするのではなく、唯、生産的の資本にのみ關係してゐるのである』と。此の同一人物から出た、此の二ツの言葉がどうして調和させられるであらうか？　社會黨は選擧中は消費され得べき富に興味を持つのであらうか？　とにかく、消費され得る富にも社會主義は關係してゐる。けれども生産的資本にのみ關係すると云ふ原

則は、確かに、その黨派の基礎としてゐる理論に服從したものである。

もし此の市長候補者が彼等の原則を彼の政見としたならば、彼は多くの反對家を造つたに相違ない。で、彼は消費される富に關係はない、生産的資本をのみ論ずるのだとは云へないので、そこで自分の理想をうちぎつて、つまり、理論を捨てゝ當面のプログラムに從つたのである。

政治上有力な後援者を得るために彼等は彼等の理論を捨てゝ生産の見地から階級爭鬪を基礎とする代りに、市民とし消費者としての民衆の幸福を中心とするプログラムを造つて彼等の運動を進めようとしたのである。社會黨は資本主義の矛盾を研究するのに忙しくて、自分等の缺點を發見する時間を持たないらしい。彼等は云ふ『直接要求のプログラムは無用であるのみならず非惡である』と。かと思ふと、すぐ彼等は、直接の要求をもつて彼等の運動の綱領としてゐる。彼等は、資本家政府の改革を行ふことに對して『社會黨の投票數の增大を恐れるからだ』と云ふ。併し、資本主義の政府が改革を實行することによつて資本主義が失ふものは何にかと云ふこと、及び、その改革によつて資本家が失つたものは剩餘價値及び階級爭鬪とどう云ふ關係があるかと云ふこと、その點を彼等は深き秘密のうちに葬むつてゐる。

併し、それが説明される、されないに拘らず改革と云ふこと　社會黨の原則に

よつて要求されないとしても確かに資本家階級の讓歩には違ひない。けれども、社會主義者は勞働と資本は共通な利益を持つてゐないと云ふ。改革は實際の革命の道から社會黨を轉換せしむる資本家の策略にすぎない、とも云ふ。

さて、此等の無限な混雜の原因と無數の矛盾の原因を何處に我々は求めねばならぬか？　マルクスの原則の間違つた解釋によるものか？　又間違つた適用によるものか？　又原則そのものが間違つてゐるのか？

それ等の疑問を解かうとすれば、原則そのものを嚴密に研究する必要がある。でなければ了解出來ぬ問題である。（つゞく）

――ウイリアム――

編輯の後

「櫻が散るのを待つてゐました」と云ふように躑躅は宇宙の生氣をみんな吸ひ取つてゞも居るかのような勢ひをもつて潑剌と咲き出します。赤いのなどは全く、今、燃へ上がらうとする火のような素晴らしい勢ひです。

四谷見附の東宮御所の前にはお濠を隔てゝ雅致ある老松の幾本かを控へて滴るような新綠の下に其の勢のよい躑躅が燃へ上がつて附近の人々を喜ばせますが、今年はもう其の躑躅とはお別れです其の代りに「躑躅の後を引き受けた」と云ふように色とりどりの草花が其の美しさを競つて咲き誇る季節となりました。

私は昨年の五月にテコニヤを一鉢買ひましたが其の花は夏中咲き通して秋を過ぎ冬にならうとしてゐるのにまだ咲いてゐますので「一體此の花はいつ迄咲いて　るつもりだらう」と思つて試して見るつもりで霜にあてないやうに注意してゐました。（六十三頁へつゞく）

教育社會學講話（第二十四回）

組織と制度

制度の成長には時間が必要

凡ての團體內に働いてゐる同化作用や統一作用に關する理論は、如何なる制度にもあてはまります。制度と云ふものは、久しい間社會の各員の上に社會心が影響し、そして、其れに相反する外界の作用が或る程度迄除去された時に設定されます。

つまり、習慣が結晶し、結晶した習慣のいくつかゞ調和し、矛盾した風習が無くなり、過去の經驗が社會の情操となり、云ひ傳へが余力となります。こう云ふ結果が、又、原因となつて制度が設定されるのです。ですから、どの制度も〳〵其れが出來上がるには皆相當の年月を要します。そして、一度設定された以上は永久的な性質を帶

びてしまひます。理想とか、禮式とか云ふような變化し易いものに於ても矢張りさうです。

制度は心理的有機體です。そして、其の絶へず働くと云ふ處に其の繼續性がありま す。ですから、一旦、廢されてしまつた制度はめつたに復活の見込みが立ちません。古い名や表面的の形式が復活するのは容易ですが、併し、古い精神が復活すると云ふことは殆んど絶望なものです。單なる一個の倶樂部でも長い暑中休暇の後に、すぐに其の作用を始めなければ、其の存在が大分危くなると云はれてゐます。

人間性と大規模の組織

殆んど、開闢以來、人間は一家族以上の小團體を造り、他の小團體と直接交通する習慣をもつてゐました。併し、長距離交通機關の發達の結果、組織の規模がだん〴〵大きくなつて、其の結果、今は、一個人でもいろ〴〵の團體と聯絡してゐます。そして、其の團體が餘まり大きいために其の團體の事情や性質が一個人には明瞭に分つて

ゐないにも拘らず、併し、其の團體の義務は其の個人の肩にかゝつて來ます。そして、其の個人は目前の自分に直接關係してゐる者のことは打ち忘れて、其の團體の方に心を引かれてゐると云ふ狀態にさへあります。此の矛盾した狀態を造り出したものは知識ですが、併し、此の困難から脫せしむるものは、矢張り、一層深い廣い知識を得ることです。

大きな制度は、さう云ふ制度に經驗のない個人の上に、不必要な制限を課して居るように思へます。けれども、其の制限を拒むことは其の制度の下に居る資格がないことになります。そして、さう云ふ人は、以前よりは一層自分の入る場所を狹くしてゐるのです。公立學校は大きな組織の一部分です。從つて命令に從ふことの出來ない敎師は自滅です。ロッスの『努力の組織』のうちに

『森の中に住んで居た原始生活によつてかたち造られた人間性は機械的の能力提供條件には從ふことが出來ない。夜業、單調な仕事、終日、同じことを繰り返へしてゐ

る仕事は、習慣になつてこそ可能である。複雜な社會機關の一部となつて働くことの苦しさは決して小さなものではない。たとへば、無條件に服從して働くと云ふことは普通人にとつては其の始めに於て耐へられるものではない。故に、社會機關の性質を了解し、其の調節と云ふことに付て悟ることの出來ない人間にとつては、現代社會程苦しい社會はない。時間表や仕事の標準化と云ふようなものは原始的人間性に反したものである。』とあります。

形式主義

今迄は、制度と云ふものに付て、社會の一大建設的なものとして、其の保存的な方面を說明して來ました。けれども、制度には他の方面があります。つまり、從來、人々に好まれて居たものも、時が經過するに從つて厭きられると云ふことがあります。それから、又、過度は特點であつた代りに弱點になる場合があります。其處で、如何なる制度にも此の過度の弱點と云ふことがあるのです。

制度は、其の制度を造つた力によつて、又、破壞されると云ふことがあります。制度は或る必要を滿すために造られ、標準を示す形式です。そして、會員は其の必要を忘れて其の形式を拜む時があります。制度は新しい會員を選むに充分なる注意を拂ふかと云ふと、さうばかりではありません。そして、會から除外された人は自分等の社會意識を發達させて、そして、反對の團體を造つたりします。

制度は、又、其の制度が造つた一定の標準に一致するように會員を改造しようとします。そして、これは會員自身の成長の芽を止め、會員の個性を失はしめます。又、制度は永久的ではありますが、併し、後から〲と新陳代謝して行く會員は其の天分に於ても、又は、修養に於ても同じようではありません。故に、自分等の氣に合はうように其の會を變更しようとするか、もし、それが出來なければ會を去るか、或ひは又、會を亂すと云ふようなこともします。

團體組織のうちには過度になつた部分がいくつも〲存在してゐて、それが共持ち

に助け合つてゐると云ふかたちになつた處があります。そして、それは形式主義と云ふ根本的弱點の一相に過ぎないものです。或る教育家は其れを『制度の疲勞』と稱してゐます。

單純な小團體の特長は餘まりに小さくて形式主義の存存する餘地がありません。けれども、團體が大きくなればなる程、形式主義も大きくはつきりして來ます。ですから、國家、宗教團體、陸海軍、鐵道會社、又は、公立教育組織のようなものに、其の弊害が存在するのは、むしろ、當然でありませう。

何處の國の制度にも形式主義と云ふものが附着してゐます。形式を造ることが一種の流行であつて、一度は、輿論が其れに贊成しました。そして、其の次ぎには形式主義の正反對の無政府狀態を要求するようになりました。其處で、其の形式主義と無形式主義との兩極端の間に調和を見出すことが社會發達のリズムであります。

個人と社會

個人と社會の關係を說明する昔風の一ッは個人對社會と云つて、個人と社會を反對に見たのでした。スペンサーの個人對國家論も其の一ッです。けれども、其の見方の誤まつてゐることを今日の社會學者は指摘してゐます。そして、個人は社會の一部分であるからして、個人と社會とを相對峙させることは出來ないと云つてゐます。

けれども、其の反對論ですらも全く滿足的なものではありません。個人と其の個人の周圍との間には相對峙させて見るべきものも存在してゐます。つまり、一ッの對照として見るべきものがあります。で、實は、昔の個人對社會は間違つて居ると云ふよりも表現の仕方が惡るかつたと云つた方が適當です。次に、其れを解剖して見ますと

(1)　社會は、社會を構成してゐる個人から離れて存在することは出來ない。社會、或は、一制度は個人の集團である。社會學の名の下に我々の研究する處のものは、個人を集團に結び付ける關係、或ひは、其の集團を他の一層大きな集團の一部として其の大きな集團に結び付ける其の關係である。そして、我々は其等の關係を具體的な集

團から切り離して無形な關係と爲し、研究することが出來る。さうした時に、社會學の總括された關係が出來上る。

(2) 各個人は其の心身に於て他の個人とは異つてゐる。勿論、關係はしてゐる。そして、どの人も〳〵體の恰好や精神の內容に於て相似た處もある。其の點から云ふならば、各個人は皆同じだと云へる。けれども、各個人は皆他の個人からは區別されてゐる。各人の意識は各人の體が彼等のものである如くに彼等のものである。宇宙間に存在してゐるものゝ中で、人間が最も他の人間と區別されてゐる。

と云ふことになります。で、此の人間と人間の間に區別があると云ふことは、個人對社會の對峙ではなく、個人と個人の對峙です。つまり、『私とあなた』です。『演說家と聽衆』と云つたようなものです。つまり、別々ではありますが、併し、たましひは密着な關係を持つてゐます。と云つて、其の關係は不變なものではありません。演說家が聽衆に對して持つて居た好感が惡感に變るかも知れません。又、惡感が好感

に變るかも知れません。二人の人の間の感じも時々刻々變つて行きます。

又、二人の人が一つの日沒を眺めて居るとしても二人とも同じ感情を持つてはゐません。一人の人が他の一人に話をするとします。話しかけられた人は『さうだ』とか『さうでない』とか云ひます。そして、自分の考へを相手の云つたことに付け加へて行きます。さう云ふ風にして二人の心が交通してゐる以上は其の二人の關係は常に變りつゝある比較であり、對照であり、對峙であります。

其の個人々々の對峙のいくつかゞ集合して社會と云ふものが出來上がつてゐます。いろ〳〵の種類の會も、都市も、政黨も、國家も、此の世界も、個人々々の對峙のいくつか重なつたものです。ですから、私共が個人對社會と云ふ言葉を用ひても、實はそれは矢張り個人と個人の對峙なのです。かりに、一學生が一人の職員に對抗的行動を取つたとします。けれども、其の學生と對峙するものは學校全部ではありません。學校の一部分なる一學生と同じく學校の一部分なる一職員との對峙、つまり、個人と

個人との對峙です。けれども、もし、其の學生が其の學校と關係を絶つてしまうならば、彼は學校全體と自分とを對峙させたことになります。けれども、さう云ふことはあり得ないことです。なぜなら、學校に關係してゐる役員職員全體に敵對すると云ふようなことはないのですから。

かくの如くに、一個人は廣い意味に於ては社會の一部分であつて、社會と對立の位置に立つことは出來ないけれども、併し、他の個人、又は、集團に對しては對立の位置に立つことが出來ます。そして、其の對立にはあらゆる度があります。夫婦、又は、親子のような親しい對立から、決鬪のような險しい對立に至るまで。

（五十三頁よりつゞく）　冬の最中の間こそ隨分危く厳しい寒氣の鞭に打ちひしがれてしまいそうになつたことも度々ありましたが、それでも少し氣候が暖いと直ぐにやつと生命を保つてゐる葉と葉の間からかすかに小さい蕾がの　き始めます。「あゝ此の花は春夏秋冬咲きつゞけて居たいのだな」と私は其の意志を認めてから夜は火の氣がある處へ置き晝は日光に當て置 ました。そして、とう／＼厳寒を取り越し、、春の彼岸が來るや否や長い間咲かうとしても咲けなかつた花がのんびりと咲き出しました。今では見違へる程幹を長く伸し葉を擴け可愛い黄金色の芯を見せて桃色の花が一杯咲き亂れてゐます。危かつた生命が復活してグン／＼伸びて行くのを見るのは、ひとしほ樂しいものです。

大正十二年五月廿三日印刷納本

大正十二年六月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一

編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七

印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一

發行所 婦人と新社會社

振替東京五三六八八

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

回婦人回問題回研究回資料回

婦人と新社會

第一卷 二圓五十錢
第二卷 三圓
第三卷 三圓

合本

總クロース金字入美本
送料各十五錢

回內容主要目次回

東京市四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會社
振替東京三六[illegible]